

令和6年10月9日  
航空局 空港計画課  
空港技術課

## 空港脱炭素化推進計画の認定式を開催します ～北海道の5空港へ認定証を手交～

国土交通省は、空港脱炭素化推進計画について、申請のありました女満別、中標津、紋別、利尻、奥尻の5空港の計画を認定します。

本認定に際し、認定証を各空港の管理者に直接交付する認定式を令和6年10月11日に行います。

航空分野の脱炭素化を図るため、令和4年6月に航空法・空港法等を改正し、各空港の管理者が空港と一体となって、具体的な目標や取組内容等を定めた空港脱炭素化推進計画を作成する制度を創設しました。

今般、女満別、中標津、紋別、利尻、奥尻の5空港から申請のあった空港脱炭素化推進計画について認定を行い、あわせて、下記の通り認定式を行います。

今後、照明のLED化、車両のEV化および太陽光発電設備等の再エネ導入を最大限実施することにより、女満別、中標津、紋別、利尻、奥尻空港の脱炭素化を推進します。

### 【空港脱炭素化推進計画策定状況】

[https://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_tk9\\_000085.html](https://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk9_000085.html)

### 【認定式】

1. 日時 令和6年10月11日(金)15時00分～15時10分
2. 場所 国土交通省特別会議室  
(東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館8階)
3. 取材等 ●報道関係者に限り取材が可能です。希望される方は、令和6年10月10日(木)15時までに、氏名・所属先・連絡先を下記 URL よりご連絡ください。  
・取材申込連絡先(Microsoft Forms のアンケートフォーム)  
<https://forms.office.com/r/5vNu5twivV?origin=lprLink>  
●当日は14時50分までに中央合同庁舎3号館8階エレベーターホールにお集まりください。

### 問い合わせ先

航空局航空ネットワーク部空港計画課 市野、笠野、小谷  
TEL:03-5253-8111(内線 51609、49218、49239) 直通:03-5253-8717  
航空局航空ネットワーク部空港技術課 大竹、土岐  
TEL:03-5253-8111(内線 49226、49538) 直通:03-5253-8717

# 女満別空港脱炭素化推進計画(概要)

## 1. 基本的な事項

### ○空港の特徴

- ・女満別空港は北海道網走郡大空町に立地し、周囲は農地等が広がる比較的平坦な地形にある。
- ・滑走路1本に旅客ビルなどの施設を有し、乗降客数約73万人、航空貨物991トン、着陸回数5,852回(2022年度)を取り扱っている。

### ○空港脱炭素化に向けた方針

- ・照明及び航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入などの省エネの推進並びに太陽光発電など再エネの導入を最大限実施することにより、空港の脱炭素化を推進する。

## 2. 温室効果ガスの排出量

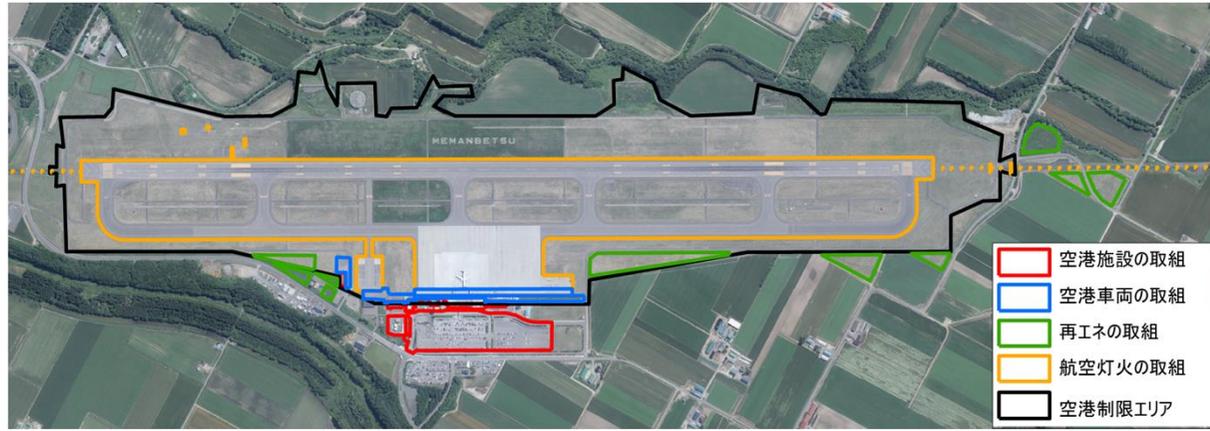
区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	2,300	2,031	
空港車両	214	198	
空港施設・車両 計	2,514	2,229	
(参考)	航空機	801	765
	空港アクセス	2,827	2,035

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 50%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

## 4. 主な取組

- ・2030年度: 空港ビル・庁舎等の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入及び太陽光発電等による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度: 空港施設の更なる省エネ化及び蓄電池の導入も含め更なる再生可能エネルギーの導入。



取組の内容及び実施箇所

### その他の取組

- ・地域連携・レジリエンス : 余剰電力を活用した周辺地域における公共施設への再エネ電力の供給や、災害が発生した際の地域への電力供給を検討。
- ・意識醸成・啓発活動等 : 定期的に計画の達成状況を数値化し共有することで、空港関係者への意識醸成・啓発活動に努める。

# 中標津空港脱炭素化推進計画(概要)

## 1. 基本的な事項

### ○空港の特徴

- ・中標津空港は北海道標津郡中標津町に立地し、周辺は平坦な丘陵地となっている。
- ・滑走路1本に旅客ターミナルなどの施設を有し、乗降客数約15万人、航空貨物131トン、着陸回数1,646回(2022年度)を取り扱っている。

### ○空港脱炭素化に向けた方針

- ・照明及び航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入などの省エネの推進並びに太陽光発電など再エネの導入を最大限実施することにより、空港の脱炭素化を推進する。

## 2. 温室効果ガスの排出量

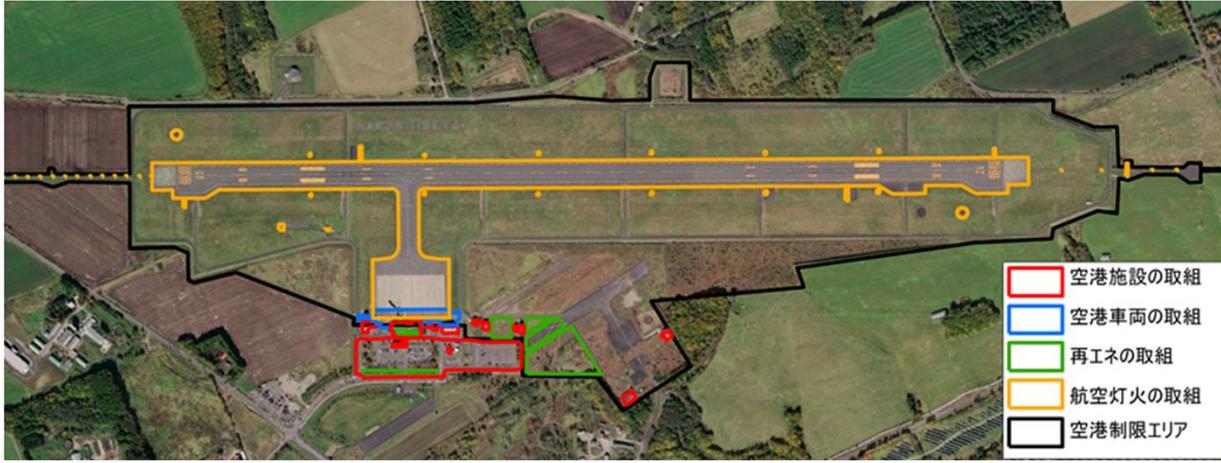
区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	707	644	
空港車両	96	122	
空港施設・車両 計	803	766	
(参考)	航空機	226	236
	空港アクセス	1,357	3,172

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 50%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

## 4. 主な取組

- ・2030年度: 空港ビル・庁舎等の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入及び太陽光発電等による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度: 空港施設の更なる省エネ化及び蓄電池の導入も含め更なる再生可能エネルギーの導入。



取組の内容及び実施箇所

### その他の取組

- ・地域連携・レジリエンス : 余剰電力を活用した周辺地域における公共施設への再エネ電力の供給や、災害が発生した際の地域への電力供給を検討。
- ・意識醸成・啓発活動等 : 定期的に計画の達成状況を数値化し共有することで、空港関係者への意識醸成・啓発活動に努める。

# 紋別空港脱炭素化推進計画(概要)

## 1. 基本的な事項

### ○空港の特徴

・紋別空港は北海道紋別市に立地し、オホーツク海から内陸側にかけては海岸段丘の丘陵地と台地が続いており、本空港は海岸段丘上に位置する。  
 ・滑走路1本に旅客ターミナルビルなどの施設を有し、乗降客数約5万人、着陸回数376回(2022年度)を取り扱っている。

### ○空港脱炭素化に向けた方針

・照明及び航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入などの省エネの推進並びに太陽光発電など再エネの導入を最大限実施することにより、空港の脱炭素化を推進する。

## 2. 温室効果ガスの排出量

区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	490	420	
空港車両	76	68	
空港施設・車両 計	566	488	
(参考)	航空機	54	56
	空港アクセス	80	68

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 50%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

## 4. 主な取組

- ・2030年度: 空港ビル・庁舎等の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入及び太陽光発電等による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度: 空港施設の更なる省エネ化及び蓄電池の導入も含め更なる再生可能エネルギーの導入。



取組の内容及び実施箇所

### その他の取組

- ・地域連携・レジリエンス : 余剰電力を活用した周辺地域における公共施設への再エネ電力の供給や、災害が発生した際の地域への電力供給を検討。
- ・意識醸成・啓発活動等 : 定期的に計画の達成状況を数値化し共有することで、空港関係者への意識醸成・啓発活動に努める。

# 利尻空港脱炭素化推進計画(概要)

## 1. 基本的な事項

○空港の特徴

- ・利尻空港は北海道本土から西に約20km離れた利尻島内、利尻郡利尻富士町に立地する。
- ・滑走路1本に旅客ターミナルビルなどの施設を有し、乗降客数4.4万人、着陸回数545回(2022年度)を取り扱っている。

○空港脱炭素化に向けた方針

- ・照明及び航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入などの省エネの推進並びに太陽光発電など再エネの導入を最大限実施することにより、空港の脱炭素化を推進する。

## 2. 温室効果ガスの排出量

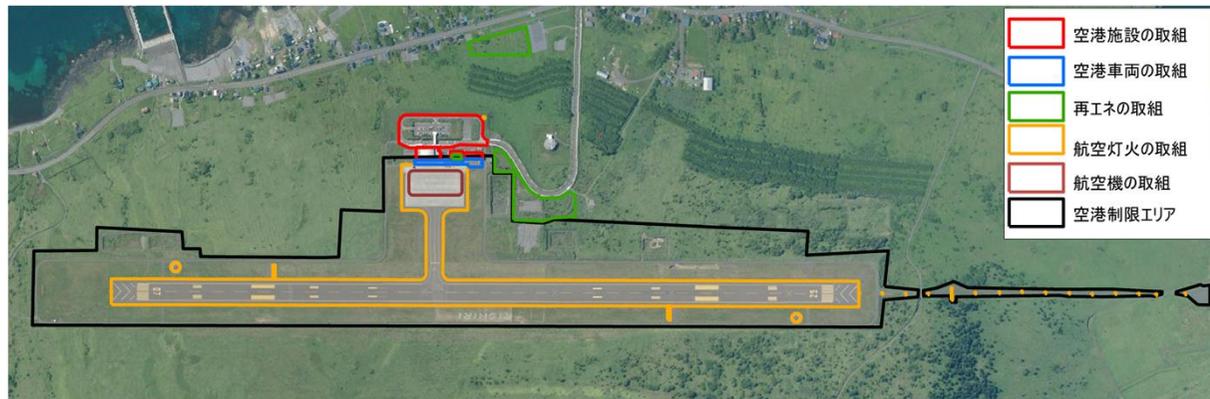
区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	383	289	
空港車両	110	73	
空港施設・車両 計	493	362	
(参考)	航空機	54	58
	空港アクセス	77	72

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 50%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

## 4. 主な取組

- ・2030年度: 空港ビル・庁舎等の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入及び太陽光発電等による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度: 空港施設の更なる省エネ化及び蓄電池の導入も含め更なる再生可能エネルギーの導入。



取組の内容及び実施箇所

### その他の取組

- ・航空機に係る取組 : 蓄電式GPUを導入し駐機中の航空機からの温室効果ガス排出量を抑制する。
- ・地域連携・レジリエンス : 余剰電力を活用した周辺地域における公共施設への再エネ電力の供給や、災害が発生した際の地域への電力供給を検討。
- ・意識醸成・啓発活動等 : 定期的に計画の達成状況を数値化し共有することで、空港関係者への意識醸成・啓発活動に努める。

# 奥尻空港脱炭素化推進計画(概要)

## 1. 基本的な事項

○空港の特徴  
 ・奥尻空港は北海道檜山郡江差町から西北61km、久遠郡せたな町から西南42kmに位置する離島である奥尻郡奥尻町に立地する。  
 ・滑走路1本に旅客ターミナルビルなどの施設を有し、乗降客数1.3万人、着陸回数363回(2022年度)を取り扱っている。

○空港脱炭素化に向けた方針  
 ・照明及び航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入などの省エネの推進並びに太陽光発電など再エネの導入を最大限実施することにより、空港の脱炭素化を推進する。

## 2. 温室効果ガスの排出量

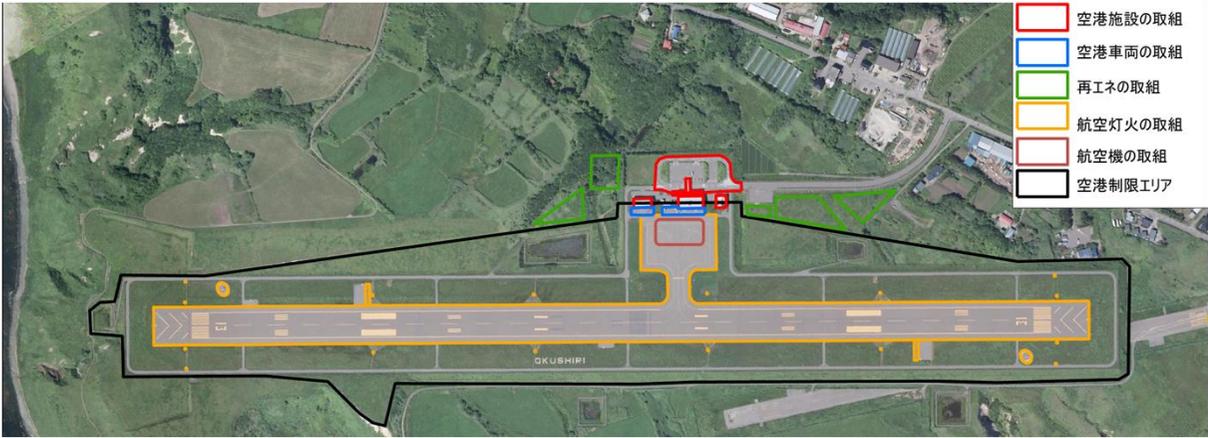
区分	温室効果ガス排出量[t/年]		
	2013年	現状(2019年)	
空港施設	182	107	
空港車両	25	21	
空港施設・車両 計	207	128	
(参考)	航空機	48	48
	空港アクセス	34	34

## 3. 温室効果ガスの削減目標

2030年度目標	2013年度比 50%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

## 4. 主な取組

- ・2030年度: 空港ビル・庁舎等の省エネ化、航空灯火のLED化、空港車両への次世代自動車の導入及び太陽光発電等による再生可能エネルギーの導入。
- ・2050年度: 空港施設の更なる省エネ化及び蓄電池の導入も含め更なる再生可能エネルギーの導入。



取組の内容及び実施箇所

### その他の取組

- ・航空機に係る取組 : 蓄電式GPUを導入し駐機中の航空機からの温室効果ガス排出量を抑制する。
- ・地域連携・レジリエンス : 余剰電力を活用した周辺地域における公共施設への再エネ電力の供給や、災害が発生した際の地域への電力供給を検討。
- ・意識醸成・啓発活動等 : 定期的に計画の達成状況を数値化し共有することで、空港関係者への意識醸成・啓発活動に努める。